

05【街の散策からの気づき発見】

春日部市旧寺町散策

旧粕壁宿・日光街道の突き当りに最勝寺を中心にお寺が並んで存在している。通称で寺町どおりと呼ばれている。

〈寺院名〉〈宗 派〉 〈本 末〉

- | | | | |
|-------|-------|----------|-------|
| 1)最勝院 | 新義真言宗 | 山城醍醐三宝院末 | 粕壁3丁目 |
| 2)普門院 | “ | 粕壁宿最勝院門徒 | ” |
| 3)成就院 | “ | 粕壁宿最勝院末寺 | ” |
| 4)妙楽院 | “ | 粕壁宿最勝院末寺 | ” |
| 5)玉蔵院 | “ | 粕壁宿最勝院門徒 | ” |



会員 K.T.



春日部市 編『新編目録 春日部市の歴史』平成 28 年(2016)等によれば、最勝院の創建年代は不明、永正元年(1504)に慈恩寺(岩槻区)の僧侶裔尊がここに移り「最勝院」と称した。当初は天台宗であったが、その後に真言宗智山派に転宗した。

普門院は真言宗智山派寺院で八幡山と号し、慶長 12 年(1607)に創建された。

成就院は真言宗智山派寺院で愛宕山大日寺と号し、創建年代は不明、慶長年間(1596～1615)に僧順清が中興開山し、元禄 8 年(1695)にここに移転した。

妙楽院は真言宗智山派寺院で僧尊海が真言宗智山派総本山「智積院(京都府)」での修行後、慶長 12 年(1607)に開山したといわれる。もとは新町橋の方にあったが、明治 19 年(1886)に火災により焼失、現在の場所へ移転した。

玉蔵院は真言宗智山派寺院で、玉蔵院縁起によれば、承久の乱(1221)のころ、武蔵から信濃に移り住んでいた春日部刑部三郎貞季は北条泰時の京都攻めに途中から加わり、功を上げたが、宇治橋の戦いで討ち死、延元元年(1336)春日部左近蔵人家縄はこの霊を弔うため、館の東側川戸寺地に僧俊栄に依頼し建立。その後幾度か火災にあい、最勝院境内に仮本堂があったものを中祖伝栄が旭町の地に再建。慶長 12 年(1607)に僧尊雅が入寺し、以後最勝院の末寺となった。

通称寺町通りの各々の寺には400年を超える歴史がある。反対側の旧粕壁宿街道入り口付近、粕壁東2丁目と3丁目の地に、これまた同じくらい歴史のあるお寺が街道を挟んで2つ建っている。

〈寺院名〉〈宗 派〉 〈本 末〉

- | | | | |
|-------|------|----------|--------|
| 6)東陽寺 | 曹洞宗 | 片柳村万年寺末 | 粕壁東2丁目 |
| 7)源徳寺 | 浄土真宗 | 江戸浅草本願寺末 | 粕壁東3丁目 |



東陽寺の創建年代は不詳、文明年間(1469～1487 年)に開山され、当初は春日部八幡神社の隣に位置。寛永元年(1624)焼失。寛文2年(1662)、当地に再建。僧熊巖が中興開山したと伝えられている。源徳寺は真宗大谷派寺院で慈光山と号し、承応年間(1652～1654 年)に僧了恩が創建したと伝えられる。明暦元年(1655)に開山、元文4年(1739)に火災に遭い、故事は不詳。



旧・粕壁宿の街道を歩くと、長い歴史の中での災害で、創建が不明となっているが、古いお寺が多いことに気づく。栄枯盛衰が常の世の中で、何百年も継承されているのはすごいことだ。基本、お寺(住職・僧侶)はお布施や護持費、寄付などが主な収入源、支出は、社殿の修理・建替・堀や塀・僧侶の給料・敷地整備などが主な活動費になる。寺院墓地は江戸時代に始まる檀家制度で普及・発展し、明治時代以降も墓地形式の主流となった。少子高齢化による人口減少・核家族化・過疎化が加わり、地方ではお墓の継承ができず無縁墓が増えている。お墓詣りをネット上で行う事もできた。今後、檀家制度やお墓はどうなるのだろうか。